

# 学位論文審査の要旨

学位申請者	中村 香理 人間発達科学専攻2012年度生		論文題目	修正感情体験に関する心理療法プロセス研究 —理論的・方法論的な基盤の構築—
審査委員	主 査:	岩壁 茂 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : <span style="float: right;">否</span>
	副 査:	篁 倫子 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	石丸 径一郎 准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	菅原 ますみ 教授		<input checked="" type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	高橋 哲 准教授		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (社会科学)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Clinical Psychology)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

## 学位論文審査・内容の要旨

本論文は、心理療法における変容メカニズムの一つとされる修正感情体験を3つの異なる分析法を用いて検討した。まず、修正感情体験が起こった6つの面接場面を集めて、課題分析法を用いて、クライアント変容のステップとセラピストの介入を明らかにした。その結果、クライアントは、過去の傷つきとかかわる感情を体験したあと、セラピストとの治療関係を対比し、そこで感じるポジティブ感情を共有することでさらに対人関係についての見方が変容されることを見いだした。また、セラピストは感情体験を促進する介入と二人の治療関係に起こりつつある感情体験を扱う即時性介入を頻用していることが分かった。

次に修正感情体験の尺度の開発に着手している。修正感情体験の尺度は、面接直後にクライアントによって評定される。11人のクライアントから集められた165回の面接のデータを元に妥当性および信頼性を行った。作業同盟、面接評価、面接中に体験した感情などの尺度との関連をマルチレベル分析を用いて検討した結果、4因子、22項目からなる尺度が完成した。適切な信頼性が確保された。

第3に修正感情体験が重要な役割をもった一事例の系統的事例研究を行った。全64回の面接において臨床的に有意な変化を遂げたクライアントの事前事後の効果の尺度、毎回の面接終了後に集めたプロセス情報、クライアントがセラピストに送ったメールの内容を分析し、修正感情体験の分類を試みた。メールの質的分析から、修正感情体験がクライアントの生活においてどのような変容と関わっているのか検討した。

これらの研究から修正感情体験という臨床的概念に実証的な検討を与え、面接中に起こる変化が面接外の変化へと一般化されるメカニズムにも言及している。様々な方法を組み合わせ、修正感情体験という現象を多角的に検討することによって、国内外でも極めて意義のある研究として高く評価できる。第1論文は、Clinical Psychology and Psychotherapy, 第2論文は、「臨床心理学」に掲載済みである。第3論文はPsychotherapyに修正採択され、現在審査中である。